【知事定例記者会見】　７月 21 日（金）

　このたびの災害で、浜玉地区で３名がお亡くなりになりました。心からご冥福をお祈りいたします。いまだ多くの方が被災され、心からお見舞い申し上げます。ボランティアをはじめ皆さまのご支援に感謝申し上げます。

●　令和５年７月九州北部豪雨災害について

　朝倉豪雨災害以来、昭和の頃とは雨の降り方が全く違う。豪雨災害、ゲリラ豪雨、線状降水帯など様々な言い方をしてきたが、局所的に激しい雨が降る。気象庁に聞くと、昭和の頃の鹿児島の降り方を北部九州でしているとのこと。鹿児島は雨を吸収するシラス台地がある。しかし、北部九州の地形では吸収できない。

　この異常気象にどう対応していくのか、問題意識を持たなければならない。連続で大雨特別警報が出たり、毎年大雨が降ることに備えなければならない。

今回の豪雨災害の特徴

　長雨が続く中、線状降水帯が発生。唐津市から脊振山系に係る北部地域、鳥栖市周辺の東部地域を中心に、短時間に豪雨が集中した。令和元年、令和３年は、武雄、嬉野、神埼が被災した。それより北寄りの山間部、北部から東部に豪雨が集中。

　今回は、施設被害が多かった。最大時間雨量 92mm を唐津市から佐賀市の山間部で観測。唐津市七山、平原、鳥巣、富士町麻耶古で土砂災害が発生。城原川上流で最大時間雨量 85mm を観測。玉島川、城原川の水位が上昇、護岸の崩壊が随所に起きた。平原今坂地区、鳥巣、麻耶古、落橋が報道されたが、多くの施設被害が起きた。

　家屋の全壊・半壊は、令和元年 1,000 件、令和３年 1,200 件、今回 50 件。床下・床上浸水被害は、令和元年 5,000 件、令和３年 2,400 件、今回 90 件。令和元年・３年に比べると深刻な被害が局所的に起こった。

　道路、河川の被害箇所数・被害額は、発災後１週間で、令和元年、令和３年よりも上回っている。道路の土砂の撤去、護岸崩落の復旧箇所が多い。

県の対応

　７月 10 日早朝、線状降水帯が発生し、午前６時に災害警戒本部を設置。翌日、現地確認し、復旧・復興推進チームを早めに設置した。被災状況の報告を受ける中、護岸や道路の被害が多く、並行して復旧・復興をしなければと判断した。

　14 日には、国に災害復旧や温暖化対策等の提案をした。これらの写真は、自衛隊、消防、警察が、土砂災害の大変な作業を効率的に交代作業をしている様子。海上保安庁にも、かちどきと一緒に捜索をしてもらった。実動部隊の皆さんに心から御礼申し上げる。

災害対応と並行して、いち早く復旧に着手

12日に復旧・復興推進チームの第1回会議を開催。インフラ関連、産業関連、生活関連の支援グループに分けた。

特に、生活関連に関しては、被災された各家庭に向き合っていく。大災害だと支援住宅、仮設住宅を建設する。今回は、むしろ個別対応が必要なため、ＮＰＯの皆さんとともに生活支援をする。

インフラ関連グループ

・道路に崩落した土砂の撤去。
・護岸崩壊は、建設業の支援を受けながら土のうを積んで応急措置。
・冠水箇所の解消のため、排水ポンプ車が活躍した。
・被災状況の調査には、ドローンが有効だった。

産業関連グループ

浜玉のハウスみかん、富士町のホウレンソウ、みやきのアスパラガス。漁協の漂着ごみ撤去など、営農再開に向けた支援を農林水産部中心に努力していく。

生活関連グループ

被災されたおひとり、おひとりに寄り添って支援する。生活、住まい、心身の健康面を、企業、ＣＳＯ等と連携してフォローしていく。

市町と連携して、応急住宅の提供、自宅の応急修理の受付、生活再建支援制度を活用して支援する。

災害ボランティア、ＳＰＦ（佐賀県災害支援プラットフォーム）にも感謝する。皆さんのおかげできめ細かい支援が可能になった。

土砂災害警戒区域にお住まいの方へ

（お願い）土砂災害発生の危険が高まったら即避難してください！

令和元年・３年の豪雨災害は８月に起きた。これから豪雨が降る可能性もあるので、土砂災害警戒区域にお住いの皆さんにお知らせしたい。土砂災害は一瞬に、一気に家屋を飲み込む。そして、どこが崩れるかは予測不能。たとえ、土砂災害警戒区域を設定しても、具体的にどこが崩れるかは分からない。

また、雨の降り方が昔とは違う。過去の経験は生かせないのだと、皆さんと共有認識を持たなければならない。

市町からの避難指示に従って、早めに安全な場所に避難してほしい。もし、移動が困難な場合は、２階の斜面と反対側への垂直避難を勧める。土砂災害は多くが１階で被災。救える命を少しでも助かるようにしたい。今後、復旧に取り組んでいく。

● 国がSUMCOへの支援（750億円）を決定しました

半導体製造に必要不可欠なシリコンウェーハは、SUMCOと信越化学工業で、世界シェア５割超を誇る。まさに日本の強み。

経済安全保障の枠組みを考えるうえで、半導体の上流部分の素材メーカーを大切にし、技術が流出しない手だてを考えるよう２年前から発言し続けていた。

経済産業省は、意見交換会や視察など真摯に対応してくれ、今回支援に結びついたことに感謝している。

佐賀県の半導体産業は、SUMCOが吉野ヶ里工場を新設。フォトレジストの世界シェア第１位のＪＳＲが県内に進出。研究機関では、佐賀大学、産業技術総合研究所九州センター、県立九州シンクロトロン光研究センターがある。

さが半導体フォーラムを設立し、佐賀県全体で付加価値の高い産業立地と実践的な人材を抱え込む連鎖を発生させていく。それが中小企業の振興につながると確信している。

九州はシリコンアイランドの復活を志し、佐賀は唯一無二の素材産業で日本の経済安全保障に貢献する。

● 佐賀県全体をデジタルの実証フィールドに

Society5.0の時代は、空飛ぶ車や医療技術の向上、宇宙でロボットが活躍などに結びつく。佐賀県は、人の力で感覚と技術力を組合せ、人中心の未来を考えている。

これまでは、SAGAアリーナのＭＲ（複合現実）体感、吉野ヶ里歴史公園の自動運転モビリティ、多久や富士町でのドローン配送事業に取り組んだ。

新たなチャレンジは、神集島でのドローンの利活用。災害発生時の被災状況把握や緊急時の物資の配送。空撮による新たな魅力の発見、発信に活用できる。

チャレンジその２は、佐賀市と共同プロジェクトで、佐賀駅とSAGAサンライズパーク間の自動運転バスの運行。完全自動運転に向け、まずはハンドルが自動に動くことから徐々に取り組んでいく。

SAGAサンライズパークは、実証フィールドとして使っていきたい。また、SAGAサンライズパークアプリでは、イベント情報や、トイレの待ち時間などを解析し情報提供している。今後、さらに充実させ様々な楽しみ方を考えていく。

会場に来られない人が、家にいながら分身ロボットで参加できる仕組みも構築したい。

佐賀を実証フィールドに、デジタルで地方創生を起こし、世界につながるローカルハブを目指す。

● レイクサイド北山（ほくざん）がオープンします

湖の名前は北山湖（きたやまこ）で、そこに北山（ほくざん）というエリアがある。10 月にキャンプ場がグランドオープンする。前段階として、７月 22 日にオープンセレモニーを行い、111 メートルのロングスライダー「北山（ほくざん）モンスター111（スリー）」をオープンする。

● 無料の新生児マススクリーニング検査を拡充しました！

子どもが生まれた際に、かかとから血を採り、20 疾患を検査している。これにＳＭＡと SCID の２つの検査は含まれていない。これらの病気は、５万人や 10 万人に１人が発症する。前もって発生が分かれば完治も可能だが、分からなければ多くの場合死亡する。

７月１日から、22 疾患の検査が無料でできるよう、全国に先行して、佐賀と栃木の２県がスタートした。「子育てしたい県“さが”」をさらに進める。

● 女子の日本代表合宿の聖地？“SAGA”？

女子日本代表の合宿が続いている。６月はボクシングの日本代表、アーティスティックスイミング、新体操のフェアリージャパン POLA は嬉野で合宿。女子から佐賀が選ばれている。理由として、充実した施設、温泉やコスメ美食、県内アスリートとの交流事業や受け入れ態勢がある。

今後も、様々な日本代表級の合宿地として標榜される佐賀県を目指す。

● 第 34 回日・韓・中ジュニア交流競技会　2026 年８月佐賀県での開催決定

佐賀県は施設整備も進み、ＳＳＰ構想も進んでいる。日本スポーツ協会から、交流競技会開催の打診があった。国スポ・全障スポの後、そのまま施設が使えるため受けることにした。

「日本代表」対「韓国代表」対「中国代表」対「佐賀県代表」が戦う。ジュニア世代約 1,000 名が佐賀に集結する。ＳＳＰ構想の下、さらに大型スポーツ大会の誘致を行う。

● SAGA ものスゴフェスタ９

８月 19、20 日に SAGA アリーナで実施する。入場無料で、事前申し込み不要。一部の予約制のところには、多くの予約の問い合わせがある。100 社以上の企業も参加する。会場で、佐賀の様々なものづくりを体感してほしい。

- 佐賀県立美術館40周年特別展「あそび、たたかうアーティスト池田龍雄」開催

池田龍雄は、岡本太郎とともに戦後美術界をリードしたアバンギャルド芸術の巨人。1928年に佐賀で生まれ2020年に亡くなった。全国的に有名だが、佐賀での個展は初開催。戦争経験を経て「芸術が一番自由だと思った」と語り、絵本「ないた赤おに」の挿絵原画を手掛けるなど、幅広く活躍した。現代アートのレジェンド、池田龍雄の芸術を堪能いただきたい。